川上 大輔さん（48 回生）
1978 年 9 月 18 日生まれ

川上織物 4 代目。
自然豊かな多可郡八千代町下三原に生まれ、高校では得意の足を活かして陸上部に所属。進学先の関西大学では文化会軽音楽部に所属しベースを担当、学園祭実行委員会にも所属し、学園生活を通して皆で協力して 1 つの物事を達成する喜びを知る。大学卒業後は地元金融機関に就職、結婚、長男の出産を経て、30 歳を機に家業の織物工場を継ぐ。本業のほか、若手織物職人で結成されたグループ Banshu-ori Next Japan の活動で活躍中。

現在の仕事の経緯
第一志望であった関西大学に進学させてもらい、4 年間充実した生活を送ることができました。両親に進学させてもらったという思いと長男だったこともあり,家業であった工場を継ぐことを考えていましたが,父親の勧めもあり、地元の金融機関に就職しました。結婚し、子どもができたタイミングで家業を継ぎました。

高校生活について
高校生活では陸上部で汗を流しました。とても厳しい練習でしたが、3 年間続けて良かったという充実感を感じました。基本的に学校が大好きでした。3 年生の 3 学期も毎日学校へ通っていました。仲の良いグループと会い、一緒に受験勉強をしたり、学校の帰り道にあったお店に一緒に立ち寄って時間を過ごしたりと、今では懐かしい思い出です。

仕事についての想い
現在、Banshu-ori Next Japan という活動をしています。この経緯は播州織の価値を知ってもらうために立ち上がりました。播州織の生地の良さを知ってもらうためにはまずバッグやスカーフといった最終商品を手にとってもらう必要があるからです。

私の会社では、テンセル生地を得意としています。テンセルはユーカリの木から抽出される自然の再生繊維です。これはとても肌触りが良く、吸水性に優れています。しかし製織の途中で切れやすい特徴があり、高い技術と時間を要する素材となります。このテンセルをより細い糸で高密度に製織し、薄くて、軽くて、しなやかな織物を主に作っています。この付加価値の高い生地を使用してエンディングドレスに取り入れました。これは最期のお見送りの瞬間を良い生地で送り出したいという想いから考えました。

テンセル生地

エンディングドレス

今後について

今 SDG s と言われていますが、私は生産者も継続して活動できるような社会が理想だと考えます。播州織を継承していくため、生地の良さを伝えるために、他にはないもの、付加価値の高いものにするための取り組みをしていきたいと考えています。

私たちは生地で勝負し、柔軟な発想を持った若者が起業し、デザイン・縫製で勝負できるようになれば、より播州織はおもしろくなると思っています。

自分のやりたいことや思い描いていることを実現できるように学び行動してほしいと思います。

後輩へのメッセージ

やりたいことを思い描いて頑張ってほしいです。当時の自分はなりたいものがなく、とりあえず経済学部という考えでしたが、今は違います。大学もより専門性が高くなり、なりたい自分に合わせて学校を選ぶ必要があると思います。自分自身でしっかり調べて有効に過ごせるような進路に進んでほしいです。さらに将来自分が「これをやりたい」という想いがたくさんの人に伝わるようなプレゼンテーションができるようになってほしいです。

生活情報科の皆さんの中には服飾に興味をもっている人もいると思います。ぜひ、縫製はもちろん生地についても積極的に学んでほしいと思います。生地の性質や価値を知れば、より自分が作るものに愛着がわくはずですし、服そのものの価値を知り、大切に扱うようになるはずです。